大山崎町上下水道事業審議会

第2回審議会資料

令和元年 9月 4日

大山崎町 上下水道課

CONTENTS

大山崎町上下水道事業審議会

第2回審議会　～大山崎町水道事業の整備計画～

1.水道施設視察

2.水道施設整備計画の進捗状況

3.水道施設整備の在り方―今後の整備方針

２.水道施設整備計画の進捗状況

＜水道施設整備計画の策定＞

（策定時期）

○ 平成２４年１２月策定。

（背景）

○ 町水道事業は、創設時から地下水水源に依存していたが、平成１２年１０月から受水している府営水と自己水により、安定給水が可能となっている。

○ 水需要の減少傾向が続いている。

○ 水道施設の老朽化が進んでいるだけでなく、地震や水害等の災害に対する備えが不十分な状況である。

○ 単年度純損失が続いており、財政の基盤強化が必要である。

２.水道施設整備計画の進捗状況

＜整備方針＞

「安心で安全な水道水を安定的に供給できる水道」を目標に

（地震・水害等に備えた水道施設整備）

〇府営水道第２受水池の築造

〇老朽度・重要度・緊急性を考慮した段階的な施設整備

〇耐震化向上に向けた送配水管路の更新

＜各水道施設の整備方針決定方法＞

① 広域化への変更も視野に入れた施設整備

② 水道施設の簡易耐震診断結果より各施設の整備方針を決定

（診断項目：竣工年度・材料構造・設計条件・外観目視）

② 水道施設の整備事業費は、過去の実績に基づき算出。

２.水道施設整備計画の進捗状況

＜主要施策（ 計画期間： 平成２５年度　～　令和２１年度 ）　＞

	主な事業	計画	事業費
第1期	府営水道第２受水池築造 （仏生田第２受水場）	新 設	計 画：430百万円 実 施：528百万円
	新規送水管布設 （第２受水池～各配水池連絡管整備）	更 新	
	早稲田配水池　耐震化	改 築	計 画：272百万円
第2期	鳥居前配水池　耐震化	改 築	計 画：700百万円
	夏目新第２浄水場　耐震化	耐震化	
	送水管更新（既設送水管耐震化）	更 新	
第3期	稲葉配水池　耐震化	耐震化	計 画：231百万円
	仲山配水池　耐震化	改 築	
	谷田南加圧ポンプ場　耐震化	耐震化	

２.水道施設整備計画の進捗状況

＜第１期施設計画進捗状況（ H25 ～ R4 ）＞

：計画
：実績

施設	計画	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
第１期施設整備計画											
府営水道第２受水池築造（仏生田第２受水場）	新設										
新規送水管布設	耐震化										
早稲田配水池	改築										
第２期施設整備計画以降の計画											
鳥居前配水池	改築										
谷田南加圧P	改修										

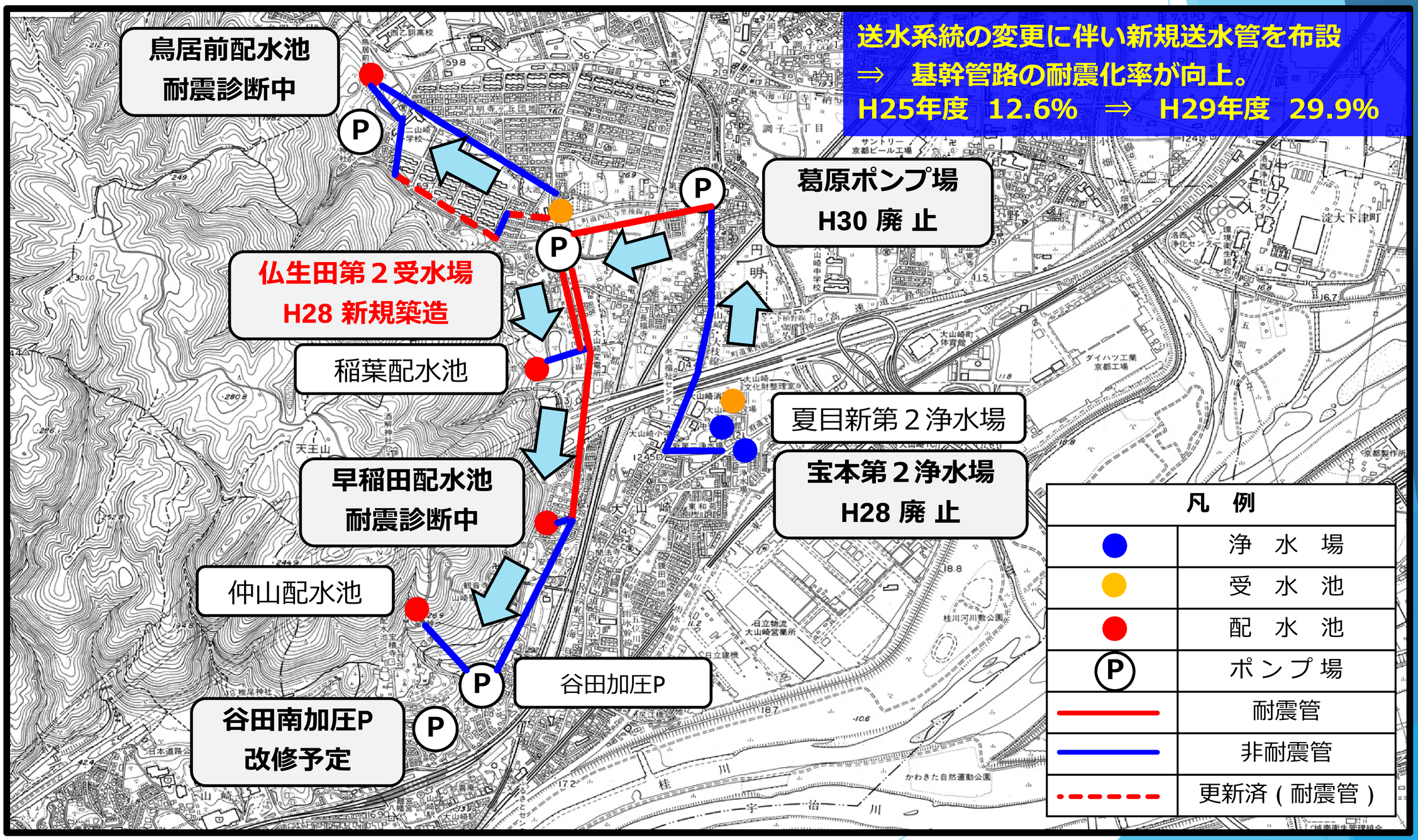
○ 第１期施設整備計画は、概ね計画通りに進捗している。

○ 現在は、配水池の耐震診断をしている。（早稲田配水池・鳥居前配水池）

○ 谷田南加圧Ｐは、老朽化と台風による損傷により計画を前倒しで実施している。

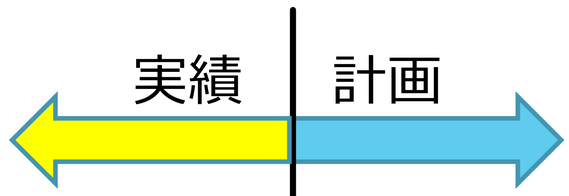
2.水道施設整備計画の進捗状況

＜水道施設の整備状況 （令和元年８月末時点）＞



２.水道施設整備計画の進捗状況

＜今後10年間の計画（施設）＞



：計画
：実績

施設	計画	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
早稲田配水池	改築												
鳥居前配水池	改築												
夏目新第２浄水場	耐震化												
谷田南加圧P	改修												

診断結果により、整備方針が決定し、令和２年度より設計業務に着手。

令和２年度に完了予定。

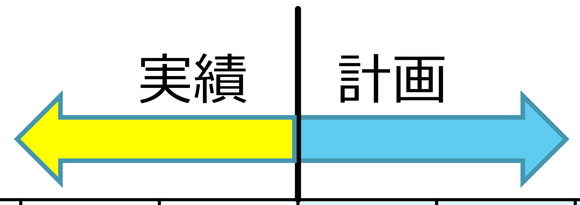
○ 配水池の着手順及び計画は、耐震診断結果により決定。

○ 令和７年度から、夏目新第２浄水場の耐震化を計画。

○ 谷田南加圧ポンプ場は、令和２年度に完了予定。

2.水道施設整備計画の進捗状況

＜今後10年間の計画（管路）＞



：計画
：実績

施　設	計画	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
送 水 管	更新												
配 水 管	更新												

○ 老朽管更新事業は、毎年度実施中。

○ 一部の送水管の更新は、耐震化事業（配水池・浄水場）後に実施。

○ 配水管の整備計画（箇所決定）は策定していない。事業費のみを計画。

２.水道施設整備計画の進捗状況

＜町の状況及びとりまく環境の変化＞

平成２４年　水道施設整備計画

町の状況は・・・

- ○ 施設統廃合による維持管理費の削減。
- ○ 管路の経年化率が上昇。
- ○ 人員確保と技術継承が進んでいない。
- ○ 一般会計からの支援(繰入金)の減少。
  - ➢ 更新事業費が不足している。
  - ➢ 企業債残高が増加。
    （将来世代への負担増）
- ○ 水道料金値下げを実施。
  - ➢ 経営基盤の強化が進んでいない。

とりまく環境は・・・

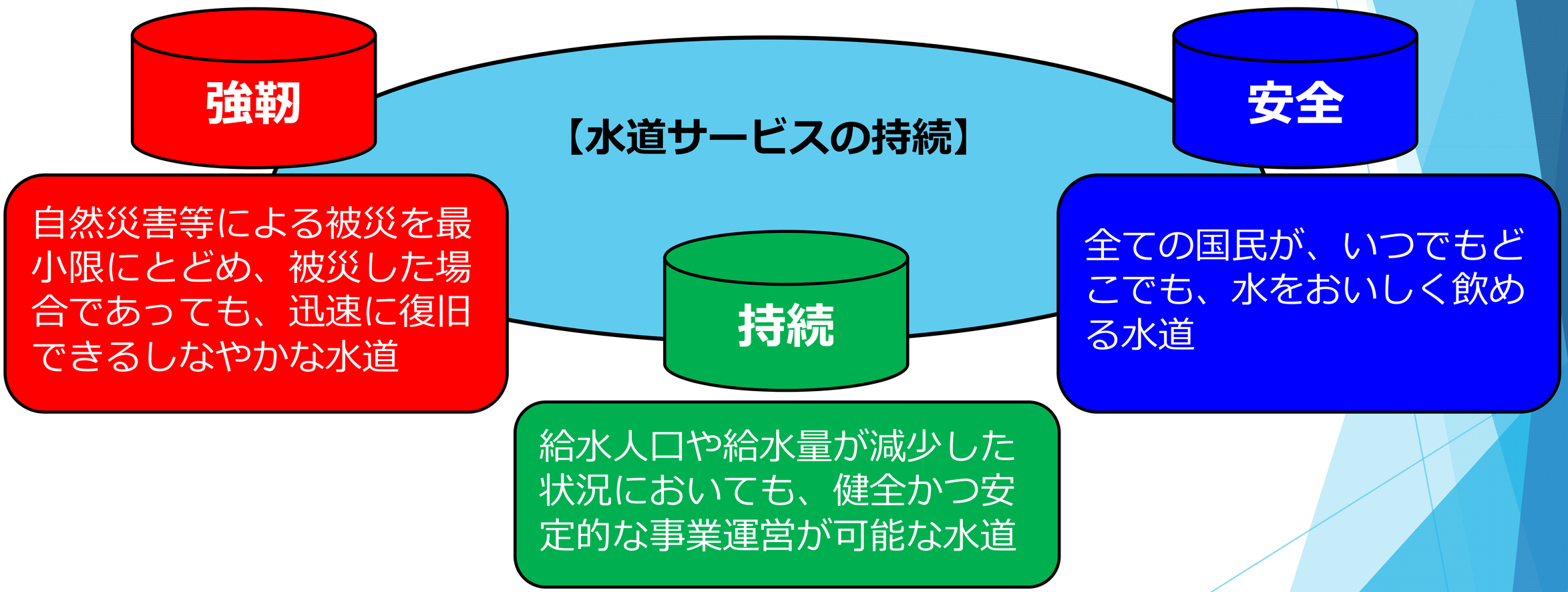
- ○ 人件費や資材費の高騰。
  - ➢ 工事費が上昇傾向。
- ○ 受水費の負担軽減が実施されたものの、府営水道においても厳しい財政状況
- ○ 水道法改正
  - ➢ 「広域化」や「広域連携」の推進。

計画の見直し（修正）が必要！！

３.水道施設整備の在り方－今後の整備方針

＜水道の理想像＞　～　新水道ビジョン　平成２５年３月　厚生労働省　～

　時代や環境の変化に対して的確に対応しつつ、水質基準に適合した水が、必要な量、いつでも、どこでも、誰でも、合理的な対価をもって、持続的に受け取ることが可能な水道



50年後、100年後を見据えた水道の理想像を提示し、関係者間で認識を共有

3.水道施設整備の在り方－今後の整備方針

＜当面の目標点＞　～　新水道ビジョン　平成２５年３月　厚生労働省　～

安全の確保

全ての水道において、いつでも、どこでも安全な水の確保がなされている状態が維持されること。

課　題

○ 水道施設（浄水場・ポンプ場・配水池）の老朽化が進んでいる。

○ 水道管の老朽化対策が必要。

○ 適正な人員確保と技術継承が急務である。

目　標

○ 水道施設の更新・耐震化
○ 老朽管の更新
○ 人員確保と技術継承

３.水道施設整備の在り方－今後の整備方針

強靭の確保

全ての水道事業者において、地震等自然災害や不測の事故、渇水、テロなどの事象に対し、総合的な危機管理体制の確立を目指しつつ、自らの給水区域内で最も重要な給水拠点を設定し、当該拠点を連絡する管路、配水池、浄水場の耐震化を完了すること。

課　題

○ 夏目新第２浄水場は、標高の低い地にあり、近隣河川の浸水想定区域。

○ 水道管の耐震化対策が必要。

○ 浄水場及び配水池の耐震化が必要。

目　標

○ 水道施設の耐震化

○ 重要度・健全度による更新の優先順位を設定

3.水道施設整備の在り方－今後の整備方針

持続の確保

全ての水道事業者において資産管理がなされ、定量的な自己評価を基に将来の更新計画や財政収支の見込みが明らかにされるとともに、利用者に対する情報提供体制、利用者の意見を事業経営に取り入れる体制が整備されること。

課　題

○ 企業債残高が増加している。

○ 経常収支比率が安定的に100%を超えるよう、経営基盤の強化が必要。

○ 有収水量は将来的に減少傾向であることから、料金収入も減少傾向。

○ 水道の基盤強化を図るため、広域化・広域連携について議論が必要。

目　標

○ 経営基盤の強化
○ 広域化・広域連携の推進
○ 適正な施設規模

3.水道施設整備の在り方－今後の整備方針

＜今後の検討事項について＞

施設整備について

○ 施設の老朽化・耐震化対策
○ 水道管の老朽化対策
○ 適正な施設規模
○ 重要度・健全度による更新の優先順位
○ 人員確保と技術継承
○ 広域化・広域連携

⇒ **施設整備のあり方（方針・計画）**

財政について

○ 投資計画（建設改良費）について
○ 不足する財源（収入）について
○ 経営の健全性・効率性について
○ 今後の経営について

⇒ **経営のあり方**